

2022 年度環境経営レポート

対象期間：2022 年7月～2023 年6月



発行日：2023 年 10 月 31 日



輝く未来のために！

フタバコンサルタント株式会社

いわき市好間町上好間字岸 12-3

目次

1. 環境経営組織図と役割分担	3
2. 事業活動の概要	4
3. 環境経営方針	5
4. 主な環境負荷の実績	6
5. 環境経営目標とその実績	7
6. 環境活動計画の取組結果とその評価	10
7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	12
8. 環境関連法規制の遵守状況	15
9. 代表者における全体評価と見直しの結果	15

2. 事業活動の概要

1. 名称及び代表者名：

フタバコンサルタント株式会社

代表取締役 阿部好則

2. 所在地：全事業拠点が認証・登録範囲

本社	〒970-1153 福島県いわき市好間町上好間字岸 12-3	TEL 0246-36-6781
	延床面積 495.98 m ² 従業員数 33 名	
郡山支店	〒963-0111 福島県郡山市安積町荒井字大池 49 番地	TEL 024-946-7567
	延床面積 157.32 m ² 従業員数 12 名	
相双支店	〒976-0014 福島県双葉郡楡葉町大字北田中満 229-2	TEL 0240-25-5260
	延床面積 103.32 m ² 従業員数 11 名	
関東支店	〒305-0042 茨城県つくば市下広岡 1040 ジョイプラザ 202	TEL 029-859-1135
	延床面積 132.00 m ² 従業員数 13 名	

3. 売上高： 1,184 百万円 (2022 年度)

4. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先：

責任者： 常務取締役営業本部長 星 広行

担当者： 総務営業部係長 小林 卓矢

TEL： 0246-36-6781

FAX： 0246-36-6670

5. 認証・登録の対象範囲：

測量・設計・地質調査

6. 業務内容：

測量 基準点測量・水準測量・地形測量・路線測量・河川測量・トンネル測量・用地測量・
工事測量・GPS (GNSS) 測量・3Dレーザースキャナー測量 (地上型・車載型)・
UAVによる3D計測

設計 道路設計・河川設計・砂防及び海岸設計・下水道設計・宅地設計・構造物設計・
各種許認可申請・積算業務・リアルパース業務・GIS業務

調査 地質調査・物理探査・地すべり調査・地下水調査・各種原位置試験・土質試験・
環境測定・家屋調査

7. 対象組織の従業員数：70 人

3. 環境経営方針

基本理念

フタバコンサルタント株式会社は、「社会環境整備のトータルコンサルタント」として、地球環境に配慮した事業活動が重要経営課題の1つであることを認識し、地球環境の保全と負荷の低減に向け社員一丸となって取り組みます。

行動指針

- 1 環境関連法規及び当社が同意した事項を遵守します。
- 2 環境経営目標を定め、よりよい環境水準を目指すため、必要に応じて見直しを図りながら、環境活動を継続的に行います。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
 - ② 水道使用量を削減します。
 - ③ 廃棄物の削減とリサイクルを推進します。
 - ④ 環境に配慮した工法の提案に努めます。
- 3 経営における課題とチャンスを考慮して環境経営目標を定め、それに取り組み定期的に見直しをすることにより環境経営の継続的な改善を行います。
- 4 この環境経営方針は当社全社員に周知すると共に環境経営レポートを公開します。

制定日 2012年7月14日
改定日 2021年12月1日
フタバコンサルタント株式会社
代表取締役 阿部 好則

4. 主な環境負荷の実績

環境への負荷		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	198,258	198,801	207,188	205,391	184,104
	電力	kWh/年	97,042	92,494	100,231	105,175	98,704
	液化石油ガス(LPG)	m ³ /年	47.7	48.0	38.6	30.3	30.0
	ガソリン	ℓ/年	61,901.8	62,360.6	63,588.5	62,603.4	57,125.1
	(軽油)	ℓ/年	0	2,458	3,029	2,585	2,542
廃棄物排出量(本社)	一般廃棄物	t	1.894	3.527	2.095	2.096	1.991
	産業廃棄物	t	1.37	7.74	3.75	0.93	1.35
水使用量		m ³	505	536	460	447	428
化学物質使用量		kg/年	0	0	0	0	0
地域活動		社屋周辺放射線量モニタリング 福島イノベーション・コースト構想キャリア育成プログラム 出前授業 福島県土木専門研修 講師 その他各種技術講習会等					

※二酸化炭素排出量を把握する際に用いた購入電力の排出係数は0.457(東北電力)(本社・郡山支店・相双支店)

0.441(東京電力エナジーパートナー)(関東支店)である

※廃棄物の排出量は処理業者のデータを含む

5. 環境経営目標とその実績

①中長期目標

項目		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			基準年度			
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	198,801			
			※	△1%	△2%	△3%
	電力	kWh	92,494			
			対基準	△1%	△2%	△3%
	液化石油ガス (LPG)	m ³	48.0			
			対基準	△1%	△2%	△3%
	ガソリン	ℓ	62,361			
			※	△1%	△2%	△3%
	軽油	ℓ	2,458			
			※	△1%	△2%	△3%
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	3,526			
			対基準	△1%	△2%	△3%
	産業廃棄物	t	7,740			
			対基準	△1%	△2%	△3%
水使用量		m ³	536	△1%	△2%	△3%
環境に配慮した工法の提案		件	1	4	4	4

※取組年度売上高にてガソリン使用量を比例計算し算出した数値に対して

施設別環境目標 2022年度実績

事業所 本社	単位	基準年度	売上比率(%)	運用期間における実績				
		2019年度	2019年度 対2022年度	2022年7月～2023年6月				
				目標※	実績/割合(%)	達成度(%)	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	78,796	-	69,729	66,555 (100%)	104.8	○	
電力	kWh	52,244	-	50,677	51,612	111.9	○	
	kg-CO2	-	-	26,403	23,587 (35.4%)			
液化石油ガス(LPG)	m ³	33.8	-	32.79	14.3	228.8	◎	
	kg-CO2	-	-	203.60	89 (0.1%)			
ガソリン	ℓ	22,050.7	86.9	18,587.0	18,482.6	100.6	○	
	kg-CO2	-		43,122.3	42,880 (64.4%)			
軽油	ℓ	-	-	-	-	-	-	
廃棄物排出量	一般廃棄物	kg	1067.5	-	1035.5	842,600	122.9	◎
	産業廃棄物	kg	7740	-	7507.8	1,350	556.1	◎
水使用量	m ³	216	-	209.52	205	102.2	○	
環境に配慮した工法の提案	件	1	-	1	3	-	◎	

事業所 郡山支店	単位	基準年度	売上比率(%)	運用期間における実績				
		2019年度	2019年度 対2022年度	2022年7月～2023年6月				
				目標※	実績	達成度(%)	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	33,912	-	47,100	37,791 (100%)	124.6	◎	
電力	kWh	14,805	-	14,361	18,446	88.8	△	
	kg-CO ₂	-	-	7,482	8,430 (22.3%)			
液化石油ガス(LPG)	m ³	1.7	-	1.65	8.1	20.4	×	
	kg-CO ₂	-	-	10.25	50.3 (0.1%)			
燃料(ガソリン+軽油)	kg-CO ₂	-	-	39,607.5	29,311 (77.6%)	135.1	◎	
ガソリン	ℓ	9,787.8	156.1	14,820.4	11,491.0	129.0	◎	
	kg-CO ₂	-		34,383.3	26,659 (70.5%)			
軽油	ℓ	1337.3	156.1	2,024.9	1,027.90	197.0	◎	
	kg-CO ₂	-		5,224.2	2,652 (7.0%)			
廃棄物排出量	一般廃棄物	kg	680.6	-	660.2	670,400	98.5	△
	産業廃棄物	kg	0	-	0	0	-	-
水使用量	m ³	45	-	43.65	67	65.1	×	
環境に配慮した工法の提案	件	0	-	1	0	-	-	

事業所 相双支店	単位	基準年度	売上比率(%)	運用期間における実績				
		2019年度	2019年度 対2022年度	2022年7月～2023年6月				
				目標※	実績	達成度(%)	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	43,170	-	42,527	32,713 (100%)	130.0	◎	
電力	kWh	9,147	-	8,873	11,262	89.8	△	
	kg-CO ₂	-	-	4,623	5,147 (15.7%)			
液化石油ガス(LPG)	m ³	7.2	-	6.98	0.0	-	-	
	kg-CO ₂	-	-	43.35	0 (0.0%)			
燃料(ガソリン+軽油)	kg-CO ₂	-	-	37,860.8	27,566 (84.3%)	137.3	◎	
ガソリン	ℓ	15,280.3	101.8	15,088.7	10,198.2	148.0	◎	
	kg-CO ₂	-		35,005.8	23,660 (72.3%)			
軽油	ℓ	1120.7	101.8	1,106.6	1514.0	73.1	△	
	kg-CO ₂	-		2,855.0	3,906 (11.9%)			
廃棄物排出量	一般廃棄物	kg	1520.0	-	1474.4	220.0	670.2	◎
	産業廃棄物	kg	0	-	0	0	-	-
水使用量	m ³	211	-	204.67	87	235.3	◎	
環境に配慮した工法の提案	件	0	-	1	0	-	-	

事業所 関東支店	単位	基準年度	売上比率(%)	運用期間における実績				
		2019年度	2019年度 対2022年度	2022年7月～2023年6月				
				目標※	実績	達成度(%)	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	42,923	-	49,193	47,045 (100%)	104.6	○	
電力	kWh	16,298	-	15,809	17,384	90.9	△	
	kg-CO ₂	-	-	6,972	7,666 (16.3%)			
液化石油ガス(LPG)	m ³	5.3	-	5.14	7.6	67.9	△	
	kg-CO ₂	-	-	31.92	47 (0.1%)			
ガソリン	ℓ	15,241.8	123.0	18,185.0	16,953.2	107.3	○	
	kg-CO ₂	-		42,189.2	39,332 (83.6%)			
軽油	ℓ	-	-	-	-	-	-	
廃棄物排出量	一般廃棄物	kg	258.5	-	250.7	257.9	97.2	△
	産業廃棄物	kg	0	-	0	0	-	-
水使用量	m ³	64	-	62.08	69	90.0	△	
環境に配慮した工法の提案	件	0	-	1	0	-	-	

全事業所 計 (参考)	単位	基準年度	売上比率(%)	運用期間における実績				
		2019年度	2019年度 対2022年度	2022年7月～2023年6月				
				目標※	実績	達成度(%)	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	198,801	-	208,549	184,104 (100%)	113.3	○	
電力	kWh	92,494	-	89,720	98,704	90.9	△	
	kg-CO ₂	-	-	45,480	44,830 (24.4%)			
液化石油ガス(LPG)	m ³	48.0	-	46.56	30.0	155.2	◎	
	kg-CO ₂	-	-	289.12	186.3 (0.1%)			
燃料(ガソリン+軽油)	kg-CO ₂	-	-	162,779.8	139,089 (75.5%)	117.0	○	
ガソリン	ℓ	62,360.6	107.3	66,681.1	57,125.0	116.7	○	
	kg-CO ₂	-		154,700.6	132,531 (72.0%)			
軽油	ℓ	2458	107.3	3,131.5	2,541.9	123.2	◎	
	kg-CO ₂	-		8,079.2	6,558 (3.6%)			
廃棄物排出量	一般廃棄物	kg	3526.6	-	3420.8	1990.9	171.8	◎
	産業廃棄物	kg	7740	-	7507.8	1350.0	556.1	◎
水使用量	m ³	536	-	519.92	428.0	121.5	◎	
環境に配慮した工法の提案	件	1	-	4	3	-	○	

※目標値は、2022年度直営売上にに基づき、ガソリン消費量を比例計算して設定している。

本社86.9%/郡山支店156.1%/相双支店101.8%/関東支店123.0% 全社107.3%

評価欄にて、◎:(120%以上)、○:(100～120%未満)、△:(70～100%未満)、×:(70%未満)

環境に配慮した工法の提案については、4件以上で◎、1件以上で○、ゼロの場合は△とする。

※二酸化炭素排出量を把握する際に用いた購入電力の排出係数は0.457(東北電力)(本社・郡山支店・相双支店)及び0.441(東京電力エナジーパートナー)(関東支店)である

尚、2022年度の化学物質の取扱いはございませんでした。

6. 環境活動計画の取組結果とその評価

項目		活動計画の内容	取組結果の評価	今後の課題
二酸化炭素排出量削減	電力使用量削減	①外出時、昼休み等パソコンを使用していないときには電源を切るかスリープさせる。 ②エアコンの設定温度を、夏期は26℃、冬期は22℃とする。 ③パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。	①◎実行できた ②○猛暑時設定温度が維持できなかった時期があった ③◎実行できた	①継続 ②継続 ③継続
	LPガス使用量削減	①湯沸かし時、火力を最強にしない。	①◎実行できた	①継続
	ガソリン使用量削減	①急発進、急加速をさげ、停車中のアイドリングを行わない。 ②タイヤの空気圧を確認し、適正値を保つ ③車両の積載物を減らす ④ドライブレコーダーでの映像検証も含め、エコドライブを実施する	①◎実行できた ②◎実行できた ③○概ね実行できた ④○概ね実行できた	①継続 ②継続 ③継続 ④継続
廃棄物排出量削減	一般廃棄物排出量削減	①廃棄物の分別を掲示し徹底する。 ②コピーの裏面のカセットを用意し、チェック等に使用する印刷物はそれを活用する。 ③両面、縮小コピーを行い印刷物の量を少なくする。	①◎実行できた ②○概ね実行できた ③○概ね実行できた	①継続 ②継続 ③継続
	産業廃棄物排出量削減	①杭及び資材はなるべく業務終了時に回収し再利用する。 ②修理可能な商品は可能な限り修理して、長期に使用できるようにする。	①◎実行できた ②◎実行できた	①継続 ②継続
水使用量削減		①食器洗い、手洗い時の流水量を控えるにする。 ②トイレ時の流水で大と小を使い分ける。	①◎実行できた ②◎実行できた	①継続 ②継続
環境に配慮した工法の提案		①法面工等については極力緑化工法を提案する。(設計) ②工法について調査する。 ③測量選定提案(伐採範囲等)	①◎実行できた ②◎実行できた ③○概ね実行できた	①継続 ②継続 ③継続

※◎実行できた
○概ね実行できた
△あまり実行できなかった
×実行できなかった

<2022年度環境活動計画表及び取組状況チェック表>

■取組期間:2022年7月～2023年6月

〔評価区分〕◎…実行できた、○概ね実行できた、

△…あまり実行できなかった、×…実行できなかった

環境目標	活動・取組項目 (なにを)	活動の具体的内容 (どのように)	取組状況の確認結果						担当者 各執行役員	報告頻度 1回/月
			総務営業部	本社測量部	本社技術部	郡山支店	相双支店	関東支店	チェック方法・頻度	
二酸化炭素排出量削減	■電力使用量削減	・外出時、昼休み等パソコンを使用していないときには電源を切るかスリープさせる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	在室者・随時	
		・エアコンの設定温度を、夏期は26℃、冬期は22℃とする。	○	○	○	○	△	△	在室者・随時	
		・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。	◎	◎	◎	◎	◎	○	購入時・確認時	
	■LPガス使用量削減	・湯沸かし時、火力を最強にしない。	△	△	△	△	△	△	随時確認	
	■ガソリン使用量削減	・急発進、急加速をさけ、停車中のアイドリングを行わない。	○	○	○	◎	◎	◎	週間工程会議時	
		・タイヤの空気圧を確認し、適正値を保つ	◎	◎	○	◎	○	○	週間工程会議時	
		・車両の積載物を減らす	◎	○	◎	○	○	△	週間工程会議時	
		・ドライブレコーダーでの映像検証も含め、エコドライブを実施する	◎	◎	○	◎	○	△	週間工程会議時	
廃棄物排出量削減	■一般廃棄物排出量削減	・廃棄物の分別を掲示し徹底する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	実施時	
		・コピーの裏面のカセット等を用意し、チェック等に使用する印刷物はそれを活用する。	◎	◎	○	○	○	○	購入時・随時	
		・両面、縮小コピーを行い印刷物の量を少なくする。	○	○	○	○	○	○	随時	
	■産業廃棄物排出量削減	・杭及び資材はなるべく業務終了時に回収し再利用する。	△	○	△	◎	◎	◎	業務終了時	
		・修理可能な商品は可能な限り修理して、長期間に使用できるようにする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	故障発生時	
水使用料削減		・食器洗い、手洗い時の流水量を控えめにする。	◎	◎	◎	○	◎	△	随時	
		・トイレ時の流水で大と小を使い分ける。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	随時	
環境に配慮した工法の提案		・法面工等については極力緑化工法を提案する。	△	△	◎	△	△	△	随時	
		・工法について調査する。	△	△	◎	△	△	△	随時	
		・測量選定提案(伐採範囲等)	△	○	○	△	△	△	随時	

環境経営計画

策定日 2012年9月14日

改定日 2021年12月1日

項目		活動計画の内容
二酸化炭素排出量削減	電力使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・外出時、昼休み等パソコンを使用していないときには電源を切るかスリープさせる。 ・エアコンの設定温度を、夏期は26℃、冬期は22℃とする。 ・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。
	LPガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・湯沸かし時、火力を最強にしない。
	ガソリン使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進、急加速をさげ、停車中のアイドリングを行わない。 ・タイヤの空気圧を確認し、適正値を保つ ・無駄な積載物は車両に積まない ・ドライブレコーダーでの映像検証も含め、エコドライブを実施する
廃棄物排出量削減	一般廃棄物排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分別を掲示し徹底する。 ・コピーの裏面のカセットを用意し、チェック等に使用する印刷物はそれを活用する。 ・両面、縮小コピーを行い印刷物の量を少なくする。
	産業廃棄物排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・杭及び資材はなるべく業務終了時に回収し再利用する。 ・修理可能な商品は可能な限り修理して、長期に使用できるようにする。
水使用量削減		<ul style="list-style-type: none"> ・食器洗い、手洗い時の流水量を控えめにする。 ・トイレ時の流水で大と小を使い分ける。
環境に配慮した工法の提案及び実施		<ul style="list-style-type: none"> ・法面工等については極力緑化工法を提案する。（設計） ・工法について調査する。 ・測量選定提案(伐採範囲等)

<2023年度環境経営計画>

環境目標	活動・取組項目 (なにを)	活動の具体的内容 (どのように)	実施時期 (いつまでに)	場所 (どこで)	実施者 (だれが)	部内チェック方法・頻度	確認者 報告頻度 1回/月
二酸化炭素排出量削減	■電力使用量削減	・外出時、昼休み等パソコンを使用していないときには電源を切るかスリープさせる。	通年	事務所	全員	在室者・随時	各執行役員
		・エアコンの設定温度を、夏期は26℃、冬期は22℃とする。	通年	各部室	全員	在室者・随時	各執行役員
		・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。	通年	事務所	事務局・部門長	購入時・確認時	各執行役員
	■LPガス使用量削減	・湯沸かし時、火力を最強にしない。	通年	給湯室	全員	随時確認	各執行役員
	■ガソリン使用量削減	・急発進、急加速をさけ、停車中のアイドリングを行わない。	通年	路上	全員	週間工程会議時	各執行役員
		・タイヤの空気圧を確認し、適正値を保つ	通年	ガソリンスタンド	全員	週間工程会議時	各執行役員
		・車両の積載物を減らす	通年	ガソリンスタンド	全員	週間工程会議時	各執行役員
		・ドライブレコーダーの検証も含め、エコドライブを実施する	通年	ガソリンスタンド	全員	週間工程会議時	各執行役員
廃棄物排出量削減	■一般廃棄物排出量削減	・廃棄物の分別を掲示し徹底する。	通年	ゴミ置場	事務局	実施時	各執行役員
		・コピーの裏面のカセット等を用意し、チェック等に使用する印刷物はそれを活用する。	通年	各部室	全員	購入時・随時	各執行役員
		・両面、縮小コピーを行い印刷物の量を少なくする。	通年	各部室	全員	随時	各執行役員
	■産業廃棄物排出量削減	・杭及び資材はなるべく業務終了時に回収し再利用する。	通年	現場	現場担当者	業務終了時	各執行役員
		・修理可能な商品は可能な限り修理して、長期に使用できるようにする。	通年	事務所	全員	故障発生時	各執行役員
水使用量削減		・食器洗い、手洗い時の流水量を控えめにする。	通年	給湯室	全員	随時	各執行役員
		・トイレ時の流水で大と小を使い分ける。	通年	トイレ	全員	随時	各執行役員
環境に配慮した工法の提案及び実施		・法面工等については極力緑化工法を提案する。	通年	不定	設計部員	随時	各執行役員
		・工法について調査する。	通年	不定	設計部員	随時	各執行役員
		・測量選定提案(伐採範囲等)	通年	不定	全員	随時	各執行役員

※環境経営計画の取組状況チェックは、毎月部門ごとに実施する。

8. 環境関連法規制の遵守状況

2023年7月3日付において、環境関連法規等の遵守状況を確認しましたが、違反状態は認められませんでした。また、関係当局からの指摘や指導、あるいは、外部からの訴訟についても、過去3年間一度もありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

2023年10月30日に代表者が全体評価と見直しを行いました。

全ての事業所にて二酸化炭素の排出量を目標より抑えることができた。これは全体の排出量の約75%を占めるガソリンの消費量を想定より抑えることができたことが一番の要因である。これは従業員のエコドライブ・アイドリングストップなどの意識向上、宿舍利用などによるものと燃費の良い車両の導入によるものと考えられる。環境負荷低減に向け現在の取組を引き続き実施していくこととする。

尚、電力量に関しては各支店とも従業員の増加にて増えたOA機器、売上増加に伴うエアコン稼働時間増などによるところが大きい引き続き現在の取組を維持し削減に向け努力する。

今年度は、環境配慮工法の提案機会を例年よりも増やすことができたため、来年度以降も提案数を伸ばせるよう継続し、環境に配慮した社会活動に貢献していく。

環境経営方針

変更なし。

実施体制

変更なし。

環境活動計画の実施状況について

堅実に実行している。

法規制等に関する情報

遵守している。

変更すべき事項

特になし



2023 年度環境経営レポートは 2023 年 10 月 15 日発行予定